

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	① 自律の精神で自己の成長を図る生徒の育成 ② 誠実、謙虚が身についた品性ある生徒の育成 ③ 進取の気象で高い目標に挑戦する生徒の育成
------------	---

(2) 現状と課題	「校訓『自律 誠実 進取』のもと、生徒の知性と品性の涵養に努め、保護者・地域社会から信頼される教育活動に努める」を学校経営方針とし、(3)の重点目標に沿って教育活動に取り組んでいる。本校生徒の特徴として、おとなしくまじめな生徒が多い一方で、やや積極性に欠け、困難を避けたがる傾向がみられる。よって、学習活動、特別活動、部活動等、何事にも積極的に取り組み、困難に直面してもそれに負けない生徒を育成したい。
-----------	---

(3) 重点目標	1 学習指導の充実 (主体的で対話的で深い学びにつながる授業改善の推進 研修体制の充実 円滑な校務運営)
	2 生徒指導の充実 (基本的生活習慣の確立 生徒指導上の諸課題の未然防止、早期発見・早期対応 安全で安心できる学校環境の確立 「6つの力」の育成を目指した諸活動の充実)
	3 進路指導の充実 (キャリア教育の推進 進路指導体制の確立 生徒・保護者に対する進路意識の高揚、助言・指導と情報提供)
	4 リスクマネジメント (生徒の心身の健康の保持推進 教育環境の整備と美化の推進 学校安全の推進)

(4) 結果の公表	学校ホームページならびに文書
-----------	----------------

学校整理番号	8
学校名	青森県立弘前中央高等学校
全日制の課程	本校

自己評価実施日	令和 6 年 1月 29日 (月)
学校関係者評価実施日	令和 6 年 2月 2日 (金)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 4名 保護者代表 (PTA会長) 1名、同窓会代表 1名、 後援会監事 1名、地域学識者 1名

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	主体的で対話的で深い学びにつながる授業の推進 研修体制の充実 円滑な校務運営	①互見授業、研究授業、研修等②1人1台タブレット端末の利用及びBLEND・ロイロノート等の活用③他分掌との連携による学校行事の円滑な運営	総合的な探究の時間の先進校視察後、情報提供を通して教職員に還元した。タブレットを利用した教科の研究授業を実施し、授業改善に向けた体制は充実していた。本校HP及びBLENDによる情報発信により、生徒・保護者への連絡は格段に向上した。	A	研究授業や研修会の電子資料を「弘前中央高校の教員専用サイト」に保存し、活用することは非常に良い。現在、教科について年間指導計画を作成しているが、生徒が先を見通してどのように学んでいくかの動機付けとして捉えると良い。	「弘前中央高校の教員専用サイト」を活用し、今後も教員の授業力向上に努めていく。総合的な探究の時間も含めて、生徒が学習内容を見通しできるようなループリックの提示を行う。
2	基本的生活習慣の確立 生徒指導上の諸課題の未然防止、 早期発見・早期対応 安全で安心できる学校環境の確立 「6つの力」の育成を目指した諸活動の充実	①朝の登校指導、保護者と連携した指導、委員会による挨拶運動②声がけ、面談、アンケート等による未然防止③スクールカウンセラー・いじめ防止専門員の支援④生徒会活動、学校行事への生徒の主体的参加、引いては部活動の活性化支援。	朝の登校指導を行い、挨拶運動を年2回実施できた。アセス、学校アンケートを実施し、気になる生徒の面談を担当と実施、そして定期的に月1回のSCとのカウンセリングも実施できた。生徒会活動を通して、学校行事等を生徒が主体的に企画・運営できた。学校祭のスマホ利用見直しや部活動の精選を進めることができた。	B	遅刻防止の対策が、アンケートから前年度に比べて評価が低くなっているように思える。校則の見直し、スマホの使用に関しては、生徒の目線に合わせて柔軟に対応してほしい。SCが毎月1回来校していること、アセス心理検査や生徒理解研修に全教職員が協力していることは大変に良い。	生徒指導の方針について教員相互の情報共有に努め、共通理解を図る。生徒との対話を中心にした生徒指導を行う。生徒の自主的な意見を重視した校則の見直しに努める。引き続きSCやアセスを活用し、問題の未然防止に努める。
3	連携した指導体制の確立 キャリア教育の充実 生徒・保護者に対する進路意識の高揚、進路選択へ向けた助言・指導、情報提供	①進路指導部主催の校内研修や、学年PTAでの進路研修会の実施②生徒への講演等による進路意識の高揚③学年、教科、分掌との連携④各社・大学の進路研究会や説明会への積極的参加⑤進路情報の積極的発信	志望理由や面接、集団討論など本校の個別指導体制を活用し、柔軟に対応した。新入生対象の進路講話、1年生対象の職業人講話、2年生対象の大学模擬講義、進路講話(2回)を実施できた。学年進路係合同の定例会議を通じて、お互いの課題を共有して進路行事を円滑に実施できた。	A	大学への出願者は多く、合格者の数も多い。また、東北大学AO入試でも健闘しており、教員が尽力しているのが分かる。医療系に進学する生徒も多く、弘前大学医学部医学科へ進学するような生徒も育ててほしい。	学校全体で総合型選抜・学校推薦型に対する対応を早めに行っていく。生徒の希望進路達成を高めるために、確かな学力向上を目指す指導をしていく。
4	生徒の心身の健康の保持推進 教育環境の整備と美化の推進 学校安全の推進	①校舎の環境整備の徹底②校内外の施設設備の安全点検、避難訓練の徹底③衛生委員会、学校保健委員会の実施、外部機関との連携	保健室来室者に対し、学年や保護者、関係機関と協働して継続的に支援した。AEDを使用した心肺蘇生法ができる人材育成と命を大切にする心の教育を推進した。また、新型コロナ・インフルエンザの感染予防指導を迅速に行うことができた。	B	古い進路棟について、寒さ対策及びトイレの洋式化をお願いしたい。朝、学校前の道路や川沿いのせまい道路で生徒を車から降ろしており、危ない。今後も安全・安心を実現する取り組みをお願いしたい。	進路棟については多目的トイレを2カ所設置し、洋式化に対応する。進路棟の老朽化については引き続き県に改修をお願いする。交通安全については、生徒・保護者に周知徹底をする。

(11) 総括	知性と品性を備え、社会人として自立できる生徒の育成を目指して教育活動に取り組んでいる。新型コロナウイルスやインフルエンザに感染する生徒は現在もいるが、感染対策に気をつけて、従来の学校活動に戻すようにした。また、ジェンダーレスの取り組みにも目を向け、女子の制服の改定や運動会での女子マ스ゲームと男子集団行動の融合などの施策に取り組んだ。また、ICTソフトのBLENDやロイロノートの活用により、生徒・保護者との連絡や授業への活用に格段の向上が見られた。今後も今まで以上に、近隣の大学と連携を深め、自立した生徒の育成に向け、柱となる探究活動をより充実したものにし、分掌間、教職員間の連携を高めていく。
---------	--